

# 日本音楽集団第108回定期演奏会

～アジアの中の日本音楽・日本音楽の中のアジア～

1989年5月9日(火)

午後7時開演

朝日生命ホール

主催：日本音楽集団

現代邦楽協議会

今回とりあげる作品群は、アジアへのあこがれや、交流の盛んだった古代へのロマンをかき立て、日本音楽を雄大な歴史の中に解き放してくれるものです。

日本音楽集団は、この秋、韓国から中国へ、シルクロードを含む東アジア公演を行います。この演奏会は雄大なアジアにはばたこうとする私たちの熱い思いなのです。

## プ ロ グ ラ ム

### 一、夷曲「西綾楽」(ひなぶり・さいりょうらく)

芝 祐靖 作曲

[笛] I 西川浩平 II 竹井 誠

[笙] 宮田まゆみ(客演) [箏] 高桑賢治(客演)

[尺八] I 坂田誠山 II 水川寿也 III 米澤 浩

[胡弓] 杜 菊衷(客演) [琵琶] 田原順子

[箏] I 花房はるえ II 木村玲子 [十七絃] 宮越圭子

[打楽器] 堅田啓輝・高橋明邦・細谷一郎

[指揮] 芝 祐靖

1985年、日本音楽集団委嘱。同年12月、第91回定期演奏会で初演。

長年、宮内庁の楽人として活躍してきた作者が、雅楽のルーツでもあり、近年脚光を浴びている西域に素材を得て作った作品。

「今回、日本音楽集団より作品の委嘱を受けたおり、迷わずテーマとしたのが、以前より温めていた敦煌千仏洞壁画の<胡旋女舞図><飛天奏楽図>など



のイメージと、第十七窟より発見された琵琶譜（パリ国立図書館蔵）の中の旋律である。

さて曲は、砂漠の中の千仏洞を表した静かな序奏にはじまり、敦煌の風に聴く唐代の楽の音へと続く。そして洞内へ進むと西域風の壁画より、羊飼いの笛が聞こえ、次第に合奏となり、薄絹をなびかせた胡旋女の踊りとなる。舞曲＜蘇羅密＞（ソラミ）が終わると、飛天の奏楽にうつり琵琶と笙が静かに奏し、次第に合奏となる。次に箏、十七絃によって敦煌琵琶譜＜傾盃楽＞の終曲＜急曲子＞の旋律が奏され、合奏となるが、これは、唐代舞曲の再興を試みたものである。

＜夷曲＞は外国風の音楽を示し、＜西綾楽＞は西方の綾羅と音楽、という意味を持っている。」（初演プログラムより、作曲者）

## 二、インド旋律による「壁画」

牧野由多可作曲

〔笛〕西川浩平 〔尺八〕Ⅰ三橋貴風 Ⅱ水川寿也 Ⅲ素川欣也

〔琵琶〕Ⅰ山田まゆ美 Ⅱ坂田美子

〔二十絃箏〕吉村七重 〔十三絃箏〕Ⅰ内藤洋子・桜井智永

Ⅱ熊沢栄利子・大畠菜穂子

〔十七絃〕宮越圭子・山田明美

〔打楽器〕尾崎太一・黒坂 昇・前田文男・望月太喜之丞

〔指揮〕牧野由多可

1973年、日本音楽集団委嘱。同年1月、第18回定期演奏会で初演。

日本音楽の「母なる大地」、アジア諸国の中で、作者は特にインド音楽のすばらしさ、奔放さに魅せられたという。

「日本音楽集団から作品の依頼があった時、私の頭をかすめたのは、集団の持つあの多彩な楽器編成と、インド音楽の持つ絢爛さとの接点であった。あの編成を生かし切る素材として、私はそこに着想を求めた。この作品において私はインドの持つ音階を自分なりにとらえて自由な発展と幻想のツバサをはばたかせることとした。従って、ここには厳密な意味でのインド音楽の再生はない。

曲は四つの楽章に別れており、

第1楽章 ミステリオーソ、エネルジコ

第2楽章 アダージオ

第3楽章 スケルツァンド

第4楽章 ウィウアーチェ、ブリランテ

となっている。なお終楽章において、インド音楽の原形に近い型が姿を現わし、単純な旋法とリズムから出発し、加速され急迫する伝統的な形成を尊重している。」（初演プログラムより、作曲者）



### 三、交響的幻想曲「朱輪金鈴」

長沢 勝俊 作曲

[笛] 竹井 誠 [尺八] I 坂田誠山 II 米澤 浩 III 素川欣也  
[三味線] I 蓑田司郎 II 田中悠美子 [琵琶] 田原順子  
[箏] I 花房はるえ・大島菜穂子 II 熊沢栄利子・佐藤由香里  
[十七絃] 内藤洋子・山田明美  
[打楽器] 尾崎太一・細谷一郎・前田文男  
[指揮] 長沢勝俊

1971年、NHK委嘱。同年11月放送初演、73年7月第19回定期演奏会初演。  
80年第4回新人演奏会で改訂初演。

未知なる古代、心のふるさと古代——古代へのロマンに満ちた作品。

「朱輪とは装飾古墳にみられる同心円の輪（太陽を表わしているといわれている）。金鈴とは副葬品の中から発見された小さな金の鈴。数多く見た古墳の中から最も強く私に訴えかけてきたもの二つを選びく朱輪金鈴」と名づけました。この曲は古代人の夢を大らかに描くいた幻想曲風な作品です。なお、打楽器の中には、中国古代の石の楽器＜磬(けい)＞と四国で採れる＜サヌカイト＞という石が使われます。」（作曲者）

### 四、十面埋伏

王 燕樵 作曲

[笛] I 西川浩平 II 竹井 誠  
[尺八] I 坂田誠山 II 素川欣也 III 米澤 浩 IV 水川寿也  
V 三橋貴風 VI 水谷雅康  
[胡弓] 杜菊表（客演） [三味線] I 太田幸子 II 工藤哲子  
[琵琶] I 田原順子 II 坂田美子  
[二十絃箏] I 吉村七重 II 内藤洋子 III 久東寿子  
[十三絃箏] I 木村玲子 II 桜井智永  
[十七絃] I 宮越圭子 II 島崎春美 III 安武由香理  
[打楽器] 堅田啓輝・高橋明邦・黒坂 昇・望月太喜之丞  
[指揮] 田村拓男

1981年日本音楽集団委嘱、同年6月、第65回定期演奏会で初演。

今まで、中国と日本音楽集団の、正にかけはしとなって来た作者の、来日直後の作品である。

「＜十面埋伏＞という曲は、有名な中国の琵琶の古典であり、随時代にすでにあったと言われ、中国歴史上有名な項羽と劉邦の最後の戦い“垓下の戦い”を写實的に描いたものである。この曲は内容的に布陣、軍楽、埋伏、小戦、大戦、項羽の自殺、漢の勝利などに分ける事ができる。この原曲にある古典は過



去から現在に至るまで大きな変遷を遂げて来ており、以前からそれを整理してみたいという構想を持っていた私は、日本の方々に中国の古典音楽を紹介できたらという考えでこの作品を書いたが、元来が琵琶の独奏曲であるために多くの新しい内容を、紀元前の音楽であるという設定の下に加える必要が生じた。そして私自身が今までに聞いたり研究してきた中国の古代の旋律を大量に補充した結果“埋伏”及び“項羽の自殺”の部分は原曲とは大幅に違ったものとなった。」（作曲者）

箏

## 二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、楽器の本質を追求した箏

日本音楽集団推薦

琴光堂和楽器店

東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL (792)8481



アイ・エム・エス

●楽器リース●保管●移動●ステージ・スタッフ派遣

〒167 東京都杉並区上荻 2-21-25

オリオンシャトー1F

PHONE. 03-397-2292